

令和5年度第1回山ノ内町総合教育会議 議事録（HP用）

1 開催日時・場所・出席者

日 時 令和5年9月27日（水） 午後6時30分から午後8時40分

場 所 山ノ内町文化センター 3階ホール

出席者 ・構成員

山ノ内町長	平澤 岳
山ノ内町教育長	竹内 延彦
山ノ内町教育長職務代理者	岩本 繁樹
山ノ内町教育委員	堀米 ひろみ
山ノ内町教育委員	黒岩 博之
山ノ内町教育委員	山本 均

・オブザーバー

山ノ内町立山ノ内中学校長	山口 近
山ノ内町立東小学校長	湯本 文洋
山ノ内町立南小学校長	中村 まゆみ
山ノ内町立西小学校長	齋藤 義和

・関係職員

山ノ内町総務課長	古幡 哲也
山ノ内町総務課庶務文書係長	田村 清志
山ノ内町教育委員会事務局教育次長	田中 浩幸
山ノ内町教育委員会事務局学校教育係長	坂口 俊明
山ノ内町教育委員会事務局スポーツ係長	田村 英則
山ノ内町教育委員会事務局学校給食センター所長	小林 知之
山ノ内町中央公民館長	小林 広行
山ノ内町教育委員会事務局中央公民館長補佐	新井 孝宜
山ノ内町教育委員会事務局生涯学習係長兼人権政策係長	秋元 素江
山ノ内町指導主事	小林 妙子

2 傍聴者 49名

3 開会

田中次長の開会の宣告に続き傍聴者への注意喚起をした。次長が議長の指名までの間、進行を務めた。

4 あいさつ

平澤町長、竹内教育長からのあいさつ。

教育委員4名からのあいさつ。

5 議長の指名

事務局から山ノ内町総合教育会議運営要綱に基づき町長へ議長を指名。

6 協議事項

議長の町長から議長について竹内教育長へ委任する旨構成員へ諮り、全員が同意。

以後、竹内教育長が議長を務める。

(教育長)

・本会議は、主に小学校統合について行い、また山ノ内町の子どもたちにとって魅力的な教育、子どもたちの未来についてもテーマとする。

・教育長が資料小学校統合議論の経緯の現状（まとめ）をもとにこれまでの経緯を説明。

令和4年3月に山ノ内町立小学校適正規模及び適正配置に係る基本方針として、3小学校の統合位置は山ノ内中学校とし、小学校統合準備委員会において、統合小学校整備計画の策定及び開校年度の決定をする修正案提出。

令和5年3月平澤町長が当選し、統合小学校の議論については一旦立ち止まると表明。

令和5年3月9日、小学校統合準備委員会から山ノ内中学校敷地内に統合小学校を開設することを前提とする山ノ内町立統合小学校整備計画案が教育委員会に答申。

同じ3月の議会定例会で、令和5年度の当初予算から関連予算の削除として可決。

今年度4月以降、現教育委員会の体制で、統合小学校整備計画案に基づいて引き続き検討を継続している。

7月21日、第6回小学校統合準備会が開催され、以降、9月19日までの間、統合整備計画案について、住民懇談会を延べ30回ほど町内各地で開催した。

主な意見として概ね3小学校の1校統合については賛同するという意見が多かったが、一方で山ノ内中学校敷地内への統合小学校の開設は、賛否様々な意見も改めて出された。

平澤町長が9月3日の住民懇談会の場で、山ノ内中学校敷地への統合小学校開設は魅力的ではない、との発言があり、9月21日までの間に町長と教育委員の皆様、また議会や役場の中で意見交換等も行われ、結果、本日、総合教育会議を開催。

続いて、教育委員、町長それぞれから発言。

(岩本教育委員)

・小学校総合の経緯について、平成17年ごろから始まっている話、平成22年には将来1校がよいとして進められてきた。統合だけに限らず教育委員会では、学校に行きづらい子どもも増えていることが話題。子どもたちが集まれるスクールなど町の中でも整備していく必要があると感じる。

(黒岩教育委員)

・統合は山ノ内町の行政がやるので合意形成がとても大事。合意形成に至るプロセスも大事で我々教育委員はそこを無視できない。コロナ以降、学校に行けない子がとても増えているがサードプレイスとして学校でも家庭でもない場所が山ノ内町には整備されていない。部活動の地域移行や総合型スポーツクラブなども教育委員会では日々議論している。

(山本教育委員)

- ・私は教育委員になって一番後輩の5年目で南小学校卒業生の山本です。
- ・統合問題については、先輩委員の方の意見を聞きながら、個人的な意見は自由に言えた。
- ・前町長の時からずっと問題を引きずっていて、ずっと総合問題については関わっている。教育委員会は統合問題だけでなく、いろいろな案件を月1回の定例会で審議している。

(堀米教育委員)

- ・私は西小学校でクロスカントリースキーのコーチを18年間やっていた。当初は東小学校がダントツに人数が多く、4つの小学校の大会では勝てなかったが、現在東小学校のクロス部員が2名だと聞いて残念に思う。
- ・私は総合型スポーツクラブの起ち上げに力を注ぎ、統合がスムーズに行われればまとまったスポーツができるのではないかと思い一生懸命統合に向けて協議している。

(町長)

- ・町長に就任して6ヶ月。町を活性化する、孫たちが帰ってきたくなる町づくりとして選挙公約とした。統合小学校についての考えを話したい。
- ・私は山ノ内中学校卒業後、アメリカに留学し、文武両道のアメリカの高校で4年間鍛えられ、ナショナルチームとして世界中をまわり、地元のオリンピックにも出場し2002年に現役引退後マーケティングの仕事をしてきた。様々なブランディングに関わった経緯から、突然町長選に出た。
- ・私の基本的な考え方
- ・日本の国力低下ということを非常に危惧している。日本の力強さというものはほぼなくなりつつある。
- ・市町村長サミットで総務省の方から繰り返し言われたことが、日本の生産性が低く、先進国の中でも非常に後ろの方。例えば農業ではドイツが100だとしたら日本は7%という数字。
- ・日本全体の人口が減少していて、町の現状も人口減少はしょうがないと思っている。
- ・ただ、人口減少と人口流出は若干違う。町民サービスとしてあるべきものが山ノ内町にはほとんどない。
- ・公共交通の維持が大変なこと、子育て施設や子育てサービスが不足している。町はすごく環境がよいと思っても賃貸住宅がなく、街中に公園が少ない、この町は非常にポテンシャルが高く、総合的に見ても他の自治体に比べてかなり高いと思っている。
- ・ユネスコエコパークがあり、素晴らしい果樹や、温泉旅館があり、日本最大のスキー場があり

恵まれている。

- ・その中で山ノ内町はずっと右肩下がりに人口が減り、今の現状を打破しなければいけないという危機感がある。

- ・一番は経済活性化とか移住者が住みたいと思えるようなまちづくりを柱として力を入れていきたい。孫たちが帰ってきたくなるまちづくりのために観光か農業の二択しかないので様々な経済の活性化を目論みたいと思っている。

- ・山ノ内町ブランドをしっかりと作る、官民連携で観光を立て直し観光局を作る、町民サービスの施設を充実させる、魅力的な住宅を建設する、役場自体も生まれ変わるとか街並みを整備していく、起業家を支援する、移住者を支援し観光農業を支援していく、魅力のある教育や学校にしていくなど。

- ・キーワードは国際化、住みたい町、仕事のある町、魅力のある教育、子育てしやすい町、健康長寿など目指してトータルで魅力のあるまちづくりと考えている。その中で経済活性化や移住者が住みたいと思える魅力のある山ノ内町を作りたい。

- ・魅力のある山ノ内町とは、「住むところ」・「働くところ」・「育てるところ」、「老後、社会福祉」など充実している町が総合的に評価されると思っている。

- ・子育てとして教育環境も重要。

- ・山ノ内町の魅力は様々な側面で非常に優れていて、さらに魅力を高めるためにどうしたらいいか考えている。山ノ内町として一丸となった政策をやっていく、経済の活性化をしっかりとしていく。基幹産業の二本柱の農業・観光を活性化していく。トータルの山ノ内町の価値を向上させていかなければいけないと思っている。女性の活躍、外国人の活躍というのにも必要。

- ・その魅力を高めるためには、町民の方、町外の方にも山ノ内町が子育て世代にとって魅力的な町で、住んで生活して年老いていくのにもいい環境となるよう総合的に魅力を作っていく。

- ・その中で教育に限らず、魅力あるものに集中して投資をしていくことが必要と考える。

- ・これから町民サービスを充実させる時にお金は限りがあるので、集中と選択で魅力あるものに投資をする。(自治体として一概に効果を確認することは難しいが) その代わり魅力があるもの、投資効果に値するものにはしっかりと投資をしていく。もちろん魅力ある教育には投資したい。

- ・中学校敷地に魅力を感じ切れていない理由は非常に明確。

- ・今計画している中学校敷地に新築した場合の、児童1人当たりの床面積が 15.29 m²。現在計画が進行中の飯山市の城北小学校の児童1人当たりの床面積は 24.25 m²。信濃町小中学校が 25.57 m²。私立大日向小・中学校(佐久穂町) 32.43 m²。

- ・どう見ても中学校敷地は狭い。工夫すれば 15.29 m²でも質の高い教育ができるが、投資効果を求めた時にこの 15.29 m²では厳しい。

- ・本当に魅力を作れるのか、と就任してから会議のあるごとに、教育面ではどういう魅力を作るのかを話し合い、打ち合わせをしてほしいと、と話している。

- ・教育の魅力とは何か。

- ・移住者方も町内の人も魅力に感じられるものであれば、積極的に投資したい。

- ・子どもたちが学校で過ごす6年間の時間は非常に長く、「箱（校舎）はどうでもよく中身だけすごければいい」というのは難しいと思っている。
- ・教育内容と教育環境という二つの側面でしっかりと魅力を打ち出してほしい。
- ・統合整備計画案は、教育内容というところで、目標があるが、これは今でも一生懸命に先生方がやられていることで素晴らしいが、他と比較をした時、山ノ内町に住もう引っ越してこよう、というところまで持っていきにくい内容だと思う
- ・E S D教育も先行して進んでいると聞くが教育内容と教育環境を魅力あるものにしていきたい。
- ・今回の統合したいという話と、小学校を中学校の敷地に建てるという話が混同されている。
- ・整備計画案では小中一貫校や義務教育学校にしたいという話にはなっておらず、検討と書かれている。
- ・移住してきたくなるぐらいのプラスアルファ、魅力、公立でも私立に近づけられるのではないかと正直思っている。
- ・もちろん公立として公平性が必要なのはわかるが、私立でやっているような教育を公立学校としてもやれることはもっとあるのではないかと思っている。
- ・今回小学校を1校に統合する話と、統合した小学校を中学校と同じ敷地にすること、これを2つに分けたい。
- ・まずは3校ある小学校を統合すること。
- ・もし用地買収の手続きが必要になると、さらに時間も延びる。
- ・この議論は10年以上続いていることを承知の上で、今建設コストが10年前よりも比べ物にならないくらい高くなっている。
- ・何を優先すべきかを議論したい。
- ・今の子どもたちに対してより良い教育を提供するための統合であり、子どもたちが減っているので、少人数クラスよりも適正規模のサイズの学校で教育を受けさせた方が社交性も身につくなど、様々な理由があるので、統合自体に対して反対ではない。
- ・その中でプラスアルファの魅力、例えば国際教育、英語教育、E S D教育というものを充実させる。
- ・コロナの影響で、東京からも移住者が増えている。
- ・山ノ内町は受け入れやすい環境にある。素晴らしい山があり、おいしい野菜と果物が採れ、周りに工場がなく澄んだ綺麗な空気が24時間吸えるという、立地的には素晴らしい山ノ内町に引っ越してきたくなるきっかけを、教育でも提供できている。
- ・この教育内容と教育環境の魅力2つを打ち出せるのであれば、町としては積極的な投資が、未来への投資につながるため、力を入れてやっていくべきだと思っている。
- ・おまけだが、町としても積極的に様々な（外国の）自治体と国際交流していきたい。
- ・観光客が増えれば移住者も増えると思う。日本の産業を維持するために外国人労働力を期待した時に、町としては国際的な感覚を身につけるためにまた、町の産業をサポートするためにも空いた学校を使って町営の日本語学校を作るなどして、外国人の雇用を増やす方向にしたい

と思っている。

私の考えとしては以上。

(教育長)

・町長としての立場から、まちづくり全体の大きなビジョン、特に魅力ある山ノ内町はどう作るか、どうアピールするか。その中で教育学校づくりが重要な一つの要素である、との考えのもとに資料を説明いただいた。今日のこの話は初めて公の場で町長にお話しいただいた。

後半は今の町長の考えを踏まえ、教育委員の皆様と議論を交わしたい

ここで10分ほど休憩する。

(教育長)

- ・後半は教育委員の皆さんと町長とのフリーディスカッションにて進める。
- ・先ほどの町長の話は、魅力あるまちづくりの全体イメージとしていくつかのキーワード。
- ・教育内容の魅力、教育環境の魅力、この両方の価値を高めていく学校づくりができないか、価値あるものを作り出し、そういった魅力づくりに投資をしていくのだと。
- ・次に教育委員の皆さんから、自由に発言を求める。

(岩本教育委員)

- ・山ノ内町に対して町長自身の目線、外から見た目線で魅力を感じていると分かった。
- ・統合小学校の課題は時間が限られている。児童数が一桁のクラスが見込まれる状態。町長の話は理解できる場所もあるのはたしか。
- ・整備計画案は現在の出生数から、クラス数・校舎の規模を想定している。町長案では、町の活性化と人口を増やす施策の一部として学校を捉えている。これからどのぐらいの(児童生徒の)人数規模を想定しているのか。
- ・地域の合意形成を積み重ねてきた中で、山ノ内中学校隣接が望ましいのではないかと辿り着いている。

(町長)

- ・山ノ内町のポテンシャルを非常に感じている。
- ・小学校の統合に時間をかけるべきではない。特に今の小学1年生が学校にいる間に統合小学校で学べるぐらいのスピード感で考えている。
- ・私は既存の小学校を使った方が素早く統合できると思っている。
- ・たしかに歴史から学ぶべきものは多いし大事だと思うが、ただ歴史に引張られて将来に良くないことをしたくない。新しい町が一丸となって、ベストな学校を客観的に選ぶべきだと思っている。
- ・例えば教室数や、送迎のスクールバス、アクセス。多少の改築ですぐにでも対応できるのは西小学校ではないかと個人的には思っている。

- ・希望だと令和7年とか8年に統合することが個人的な意見。希望として最短でやりたい。
- ・中学校の横でも新築費が30億円になり、中学校の敷地に建てること自体ものすごい決断になる。
- ・中学校敷地でスペース的に足りていて魅力を作れるのか疑問。
- ・中学校敷地でも具体的な中身や建物含めて、十分町外や移住者に魅力的に思われるような学校を作れて絶対大丈夫と言うなら、進んでもいいと思う。
- ・のびのびと動き回るべき時期の小学生の子どもたちに対し、広々とした土地がある山ノ内町で、なぜ、狭いと思われている中学校敷地に30億円の築校舎をお金をかけて、そこに統合小学校を集中させなきゃいけないのか。
- ・もっと広い土地でのびのびとした学校を作ろうという案にそもそもならなかったのか疑問。
- ・30億円の借金は次世代に繰り越していく話。より魅力を作って、外から移住者が来たくなくなるようなものにお金をかけたいということに執着したい。
- ・基本的には教育委員の皆さんと学校の校長先生たちの話し合いで決めてもらえばと思う。

(山本教育委員)

- ・町長のプレゼンについて、統合は立ち止まって考えるということについては、本気で考えているのだと感じた。
- ・個人的な考えとして、お金をかけないなら、用地買収が決まるまでの間、南と西にまずは2つの学校に統合して、その間に用地買収を進めて同時に進行させる。
- ・西小の改築はお金がかかるので、一切やらない。用地買収が決まった段階で、3校統合もあるのではないかなと思っている。
- ・山ノ内町のポテンシャルには、水もある。
- ・町長は用地買収に妙案をお持ちか聞きたい。

(町長)

- ・用地買収に関しては非常に難しい。だからこそ中学校敷地ではなく既存の小学校と思っている。
- ・まずは2校で、という案だが、できれば1校でみんなが入れる学校に統合して、その間に用地買収を進める。
- ・中学校の敷地が嫌いなわけではなく、逆に中学校周辺の用地買収がスムーズに進んで今以上のスペースが確保できる目途がつけば、中学校の隣接でもいいと思う。
- ・用地買収ができてない段階で中学校敷地ということだけが決まっている。今のままだと本当に狭い学校になってしまう。そこに30億円をかけるのはどうか思う。
- ・中学校敷地の周辺の買収ができず狭いままの方が怖いと思う。統合を急ぐのであれば、既存小学校に統合してから、小中一貫・義務教育学校も含め同時進行的に議論し、建てる場所を決めることができればよいと思う。
- ・狭さをカバーするだけの魅力が今の整備計画案では示されていないのではないかと思います、一

且立ち止まるということ考えている。

(教育長)

・用地買収という点では、中学校の敷地でも新しい場所でも、必要であれば難易度は同じくらいという話だったかと思う。

(黒岩教育委員)

- ・町長のプレゼンで感じたのが山ノ内町のポテンシャルがやっぱり高いこと。
- ・ただ、実際に町長のプレゼンの内容が実現するのか疑問。
- ・移住者が増えることは魅力的だがこれまでの統合議論の経緯や合意形成やプロセスが大事。教育委員会は住民を増やすことを目的に合意形成をしてきていないので目的が大きくずれている。
- ・先に統合して、その後大きな土地を求めて小中一貫で私立学校にできないような特徴がある教育を公立でやることには限界があると思う。例えば教員の配置について私立学校にも引けを取らない教育をする教員はどうやって確保するのか。町費で確保するのか。
- ・輝く学校を作るのではなく、学校がまず輝くことが重要。
- ・今年の3月に策定した山ノ内町統合小学校整備計画案の基本構想を理解すると、とても素晴らしい教育ができると思う。
- ・統合が必要だと責任ある人たちが、一生懸命議論を重ねてこの案ができたプロセスも絶対無視できない。この基本となる整備計画案を作ったのは我々山ノ内町民の意志だということを町長には理解してほしい。
- ・特徴のある学校は、校長先生の裁量や住民の意識でいくらでも形成できると思う。
- ・町長のプレゼンは本当に素晴らしい。ただ、整備計画案を大きく修正しなければならなくなる。その場合は町長のプランを町民に広く知っていただき、山ノ内町の未来像、現時点で足りないものを徐々にオープンにして、これまで議論してきた町民にまず理解いただくことが必要と思う。しかもかなり迅速に。
- ・既存の小学校を使う議論になることも大きな変更になる。整備計画案と違う町長の示す統合プランが現実になるとわかれば、我々も町長案に修正していきたいと思う。現時点では不透明なところが多く、今まで議論してきたプロセスを優先すべき、と私は考える。

(町長)

- ・今の整備計画案について、何度も見ていて、理解しようとしている。この整備計画案を否定しているわけではなく、この統合小学校整備計画に対して、異を唱えているつもりはない。これにプラスアルファで魅力を加えてもらいたい、というお願い。
- ・私立の実施している教育を公立学校でもできることはあるはず。ALTのような外国人指導助手を1校あたり3～4人の配置を売りにしている自治体もある。・リクエストとして、よりリアルな英語に触れる機会を増やせるのではないかと思っている。

・教育は未来の投資だと思っているので、教員をどうするかは、ある程度一般財源使っても力を入れるべきと思っている。

・既存の小学校で統合し、その間にいい場所を確保して、より魅力的な学校の建設と設計を進めた方が、投資効率という面では町の限られた予算を重点的に当てられる。

・たしかに今の子どもたちがいきなり新築校舎に通えないというデメリットはある。基本設計、実施設計に進めず、すでに計画が1年遅延している。もちろんこれは僕のせいで遅延している。当初の目的である今の子どもたちに一緒に学んでもらいたいという統合であれば、既存の小学校を使う方が今の子どもたちのためになるのではないかと考える。

(黒岩教育委員)

・統合と土地確保を同時進行できればいいとは思いますが、同時進行できるのか。

・我々が導き出した、町民の意志である整備計画案を変えるのであれば、同時進行できるという保証がないと、向かうことができない。

・中学校敷地の統合で魅力的な教育をとのことで、既存の中学校敷地は狭いのではという議論だが、事務局が作った資料だと確かに中学校敷地内で想定すると、1人当たりの面積は児童1人当たり15.29㎡で狭い。ただ、新しい学校が小中一貫校になった場合の敷地は、1人当たりの面積が25.99㎡で決して狭いと思わない。

・中学校敷地に決定するのであれば当然、その周りの用地買収の議論も始まると思う。中学校敷地が現実的。町長プランのいつどこに統合というのが不明。町長プランの今年度中に用地を買収する、これがわかるのであればやりたいと思うが、それができない状態ではもう待てない。決して中学校のある場所で、魅力的でない教育しかできないとは思えない。その点はいかがか。

(町長)

・そもそもこの整備計画案上で、小中一貫校にする、9学年制で中学校の敷地を最大有効利用すると、だから用地買収しなくとも、25.99㎡取れて十分魅力的な教育ができると。それを今から皆さんに検討いただき、プラスアルファを明確にし、魅力的な学校が作れると言うのであれば、良い案だからやりましょうとはできる。ただ、いろいろ中途半端だと思っている。

・統合小学校と言いつつ、小中一貫や連携は後で考える。この計画自体が課題を先送りしている。今用地買収されてなかったら、そもそも計画どおりで進まない。計画自体は今の中学校隣接敷地だけを使う想定だと認識している。小中一貫校や義務教育学校の議論は後日で、本当に30億かける価値を作れるのですかという話。もう10年議論したからこのまま進めさせてください、という理由だけでは、できない。

(黒岩教育委員)

・その30億円出してもいい価値というのは何ですか。

(町長)

- ・都会から魅力的に映る教育内容と教育環境の二本が明確になればよいと思う。

(黒岩教育委員)

・私自身、最初に町長プランを聞いた時にすごくいいなと思った。ただ、町長のプランは実現可能だというのが見えないと、町長の案に乗れない。今までの議論を無視できない。町民に対して町長の想いやプレゼンを細かくしていただいて、町民が同意、承認したならば、今年度中に町長プランの用地買収を始める。その勢いで行けないのならば、整備計画案のまま進めた方がよいと思う。

(町長)

- ・この整備計画案自体が、まず中学校の敷地の周辺の用地買収は前提としているか。

(黒岩教育委員)

- ・それはしていない。

(岩本教育委員)

・前町長とも総合教育会議を行った際に中学校敷地への統合小学校にはもう少し土地が必要だという話の中で、用地買収を視野に行うと言われた。

(町長)

・用地買収が進むのであれば中学校敷地でいいと思う。それこそ難しいという話もある。設計段階で用地買収できていなければいけない。であれば、この時点ですぐに設計の段階に入りましょう、って言っても建築まで10年以上が必要。設計途中で用地買収の計画を反映させるのは現実的でない話。だから基本設計に入る前の段階で用地買収ができてないということは、しないという前提じゃないかと判断している。

(黒岩教育委員)

・たとえ用地買収しなかったとしても、小中一貫校であれば25.99㎡が決して狭いとは言えないことと、町長案の広い土地で夢のような学校が作れるのであれば素晴らしいと思うが、その保証がなければ方向転換できない。町長が町民への合意形成を今年度中に図っていただけるか。

(町長)

・正直無理です。そんな早いスピードで新しい土地や中学校敷地周辺の用地買収はできないと思う。統合を先に進めるという案はないのか、という話。統合をしたいのであれば中学校敷地に新しいものを建てるではなくても、西小でも東小でもまず統合する。その上で中学校の周辺敷地を用地買収して増やせるようにするとか。

- ・中途半端なことに30億円をかけるだけの余力はこの町にはない。投資するのはものすごい一

大決心になる。さらに負債を未来に残すことになるため、中途半端ではなくちゃんとやりましようという話。

(黒岩教育委員)

- ・整備計画案が中途半端ということか。

(町長)

・整備計画案を見る限り、統合に関しての中身(整備計画案の基本構想)は素晴らしいと思うが場所やスケジュールはもうすでに狂い始めている。

(黒岩教育委員)

- ・合意形成とそれに至るプロセスを私たちは無視することできない。

(堀米教育委員)

・町長が、中学校の周りを用地買収できるのであれば統合は賛成だとの話はほっとした面もある。

- ・統合計画として用地や、既存の学校への統合について、視察して検討してきた。

・用地は少し狭いのではと考え、用地買収について意見を出しあいながら中学校の周りを視察した経過もある。

・用地買収は、場所が決定しなければ進めない、用地買収を進めることができないと話があった。

・町長は、移住してきたくなる小学校、魅力のある小学校を定義してくれと私たちに投げかえかけたが、そもそも私たちは移住者を集めるための小学校を建てようという目的はなかった。

- ・用地買収がうまく進み統合やむなしであれば、すぐに用地買収を進めて決定してもらいたい。

・中学校敷地が狭いからとりあえず西小に統合しよう、という案は何か矛盾しているなど思う。

町長が言う「魅力ある学校づくり」は、今の子どもたちを西小に統合することで魅力のある学校づくりができるのかと疑問に思う。

(町長)

- ・もう一回整理すると、移住者を増やすというのは町としての課題でもある。

・この町でも私立並みの教育が得られる。公立でも素晴らしい教育があると言わせる内容を作ることは不可能ではなく、発想の転換が必要と思う。

・日本の教育は10年間英語を勉強しても話せるようにならないことも有名。このままではよくないので新しいことに挑戦してほしい。

・中学校敷地周辺の用地買収がスムーズにいくのであれば中学敷地に建てるべきだと思うが、これから用地買収を進めるとなると開校が遅れる。

- ・一番の問題は、子どもたちにしわ寄せが行く。

・統合イコール新しい建物という発想が凝り固まっていると思う。統合は既存の学校でもできると思う。

・元々の統合の目的は、児童の数が著しく減少すること。

・社会性が磨かれないとかいじめがずっと続いたら困る、という保護者の心配などから、統合を急いで進めたいと言っていると理解したい。統合を急ごうということをしかりと読み取ると、新しい建物である必要が特にはないのではないか。

・統合先を中学校敷地とする理由は、合意形成の結果だと思うが、これからの山ノ内町の将来を考えたときに地域エゴを子どもたちに植え付けることが絶対あってはいけないと思う。

・小学校の統合イコール新しい学校を中学校敷地に建てなきゃいけないというのは、スペース的に問題がある。

・もし用地買収することに時間をとられるなら、まず統合しましょう。子どもたちのためにもそれが元々の希望のはず。

・魅力ある学校づくりに関して言うと、ALTを増員するなどは採り入れやすいのではないかな。

・統合を進めるというのであれば、統合を先にさせてもいいと思う。

(堀米教育委員)

・既存校舎にとりあえず統合するとしても、20年後に学校自体の改修工事をしなければいけなくなる。

・町長のいう小中一貫教育のための新たな建設地を求め膨大な土地を買収するよりも中学校敷地で進める方がスムーズに行くのではないかなと思う。

(黒岩教育委員)

・まず統合という話がでていますが、新築でかつ中学校の横で統合したい、という案がまとまっている。

(町長)

・中学校敷地に30億円をかける価値ありますよというプレゼンをしてもらえれば検討の余地はなくなる。

(黒岩教育委員)

頑張ります。

(岩本教育委員)

・統合を急ぐあまり既存の学校を使うというのは議論が戻ってしまう。

・中学校敷地の隣接で小中連携が望ましいというのが、現時点の計画案。

・町長のイメージしている新しい土地を探して校舎の新築工事をできる保証は正直望みが薄い。そうすると、いったん西小学校を統合先としたなら、そこで統合議論が終わってしまう。そこが

すごく心配。

(町長)

- ・魅力あるものに関しては投資すべきだと思っている。
- ・議論が戻ることは重々承知している。
- ・西小に1回統合したからといって、今すぐに新しい敷地が手に入りますということとは言えない。そのための努力をすべきだと思っている。
- ・用地取得をしてよりよい学校教育をつくるために引き続き努力をしていくという体制だと思う。
- ・確約はできないが、中学校の周辺の敷地の交渉と、新天地の交渉を2本立てで進めるしかないと思う。
- ・予定通り中学校敷地内とするなら移住者が増えるぐらいの魅力的な教育の案を出していただけたら、30億円かけましょと議論になる。
- ・10年議論したからとか、地域エゴを理由に次の世代に30億円の借金を背負わせるのはできない。
- ・これから生き残るためには差別化が重要。この町が光っているものをさらに磨かないと、この町は生き残れないと思っている。
- ・ハードルは高いかもしれないが、30億円投資したいと思えるような魅力的な教育環境と教育内容であれば投資する。一つの山ノ内町の町民としてベストは何かという発想になっていただけないかということ。

(岩本教育委員)

- ・地域のエゴにとらわれることなく、これからの子どもたちを山ノ内町の子どもとして育てていく。そういった環境づくりは同感。ただ、この統合小学校整備計画案というのが、大変深いものなのでもう一度確認いただき、中学校敷地に隣接する小学校とすることを検討いただきたい。

(教育長)

- ・教育委員の皆さんも町長も話足りない部分があるかと思います。
皆さんの話から、大きな意味で山ノ内町の子どもたちの、また町の未来のために、前を向いてしっかり議論をしようという皆さん方の姿勢は、同じ方向を向いているのではいかなという印象も持った。ただ、場所をどこにするかについては、まだまだ議論が足りない。
- ・教育委員会としても、町長から具体的に、客観的に説明できるような、魅力ある学校づくりのプランを示してほしいという宿題がある。
- ・情報を整理しながら、より魅力ある学校づくりを進めたいと思う。
- ・山ノ内町の素晴らしい教育環境のうえでその魅力がさらに小学校が一つになることによって、はっきりとより良い形で強い形が出るだろう、と私も期待するので、その点で3小学校の統合は、少しでも早く実現すべきと私個人としても感じる。

- ・これからも町民の皆さんの意見や、具体的なプランづくりを、統合準備委員会の委員の皆様も一緒になってぜひ作っていければ、と感じている。
- ・町長が教育のことを大事に考えて、良い教育のためならしっかりと投資をする、という強い覚悟を示したことは心強いと思う。その期待に応えられるか、これから教育委員や準備委員会の皆さんと現場の先生方と一緒に、ぜひ作っていきたいと改めて感じた。
- ・引き続き地域の皆さん、保護者同士、この統合や学校づくりの問題、子どもたちのために関心をより高めていけたらと思っている。

(町長)

- ・色々と議論できたが、ダラダラやってもダメなので、できれば今年中、11月12月あたりには方向性を決めていきたいと思う。
- ・教育の中身は先にしっかり議論いただきたい、素晴らしいことであれば、無理に反対しない。
- ・残念ながら、中学校敷地は狭いじゃないかという声に対して説明がちゃんとされていない。狭くても大丈夫、町民も満足して移住者も増えるんだ、ということがちゃんと示されればよいが、そこが足りないと思うので、ぜひお願いしたい。

(事務局)

本日の、令和5年度第1回目となります総合教育会議は、以上をもちまして終了します。お疲れ様でした。

7 閉会

※ 「小学校の建設費 30 億円」とは、全国の建設費用を山ノ内町で新築と仮定した場合のイメージの額であって、建設費が 30 億円と決定したものではありません。